

そ う ぜ ん じ 便 り

19世 俊諦和尚筆

第 151 号

令和5年 正月号

臨 濟 宗 宗 禅 寺
建 長 寺 派

住 職 高 井 正 俊
徒 弟 高 井 和 正

羽 村 市 川 崎 2-8-20

TEL 042-554-1276

FAX 042-578-3525

新しい一年を迎えます。二月三日の立春の節分は、旧暦では新春正月にあたります。

コロナの影響もごさいますので、恒例の豆まきは出来ませんが、川崎のお薬師様に邪気を払いの福を集める祈祷法要を営みます。お参りはできまですので、一緒に掌を合わせましょう。

令和五年二月三日(金) 午後四時から

川崎一本木堂薬師如来 新春祈祷法要

雨天決行

式次第

◆ 鎌倉流御詠歌奉詠 祈祷法要

◆ 法要後 薬師堂から豆まき

※お薬師様から福豆とお子様にはお菓子のプレゼントがございます
※お札のお申し込みは随時募集しています。

宗禅寺俳句会 歳時記俳句

■きのうとは 遠き過去なり お元日
■庭に摘む なづなもてわが 七日粥

中野つたえ

■うんちくも 味の内かな 晦日そば

■節電や 厚着でしのぐ 霜夜かな

田村 章

■1人来て 鎮守を拜す 冬日和

■風にとぶ 枯葉追ふ子ら とび跳ねて

中野 満子

■暦買ふ 余白にしるす 未来地図

■鴨親子 湖面に波動 行進中

雨倉みよ子

■風に来る 鷺の白さや 冬うらら

■漱石を 老ひてまた読む 冬日和

平井 敏正

■柚子を手に お風呂出てきた 裸ん坊

■冬満月 オリオン通り ジャズに酔う

島田 陽子

■寒風に 園児の笑ひ 洩れ響く

■水尾ひいて 鴨が静かに 進み行く

島田 実

■北風や 楽しみが待つ 家路かな

■雪の中 句を迎える 美味野菜

戸梶 功

■和太鼓の 張りを確かめ 初稽古

■みくじ引き 異国の人の 初詣

中野 良一

立春節分析禱法要

祈禱お札のお申し込み

随時募集しております

表紙の通り、二月三日に一年の安寧を願う、新春祈禱法要を執り行います。例年通り、川崎の薬師如来の祈禱御札をご用意致しますので、ご希望の皆様は同封のお葉書にてお申し込みをお願い致します。

薬師如来は皆様の健康を司る仏様ですので、皆様が一年、健やかに過ごせるよう、お祈り致します。

お申込みいただいたお札は、後日郵送にてお手元にお届け致します。

劇団水族館劇場

新春路上芝居

「むすんでひらいて」

新春正月三日午後一時から、水族館劇場の路上芝居が本堂前にて上演されます。昨年座長の桃山昌さんが逝去されましたが、桃山さんの遺作となる台本です。皆様のご来山をお待ちしております。

◆令和五年一月三日 午後一時開演

「むすんでひらいて」

〜むすんでひらいて〜

◆観劇料 投げ銭にて

雨天決行致します

中野喜一さんの出版を祝して

中野喜一さんが「傘寿の呟き」の続編として、「卒寿の呟き」を出版されました。

「まえがき」と「目次」を掲載して、お祝いと致します。御本の欲しい方はお寺においで下さい。さしあげます。

まえがき

川崎村の歴史を改めて見直し、年と共に忘れ去られて行く往時の世相や、特に変化の著しかった戦中戦後の様々な物事を思い出し、枯れかけた老骨に鞭打ちながらあれこれ書き下ろしてみました。私は90歳を越えたことから今回の散文は「卒寿の呟き」としました。しかし無学の上に老衰も加わり甚だ拙い内容ですが、昭和の世相を知らずに成長した世代に、ささやかなりと役立つことができれば幸いです。

令和4年7月吉日

中野 喜一

目次

1	川崎会館と周辺の変遷	1
2	堰下の多摩川今昔	9
3	鮎魚の歴史	16
4	テカの走った水道みち	23
5	遠江坂と大石家	30
6	川崎村の地芝居と二宮歌舞伎	38
7	寿満の遺した短冊	50
8	意地悪虫	57
9	火事の話	65
10	突然消えた稲荷様	70
11	大菩薩峠記念館を観る	75
12	昭和初期の満蒙開拓	80
13	戦争と銃後の村人	86
14	太平洋戦争余話	111
15	昭和初期の行商人	116
16	昭和年代の暮らしと衣服	126
17	昭和年代の農家	136
18	豚の彫刻	147
19	藍染に挑む	151
20	津島神社に参詣して	157
21	小学生の頃	162
22	ラジオ・映画を楽しむ	170
23	新元号「令和」に寄せて	177
24	俳句懐古	182
25	古りし句帳より	190

りあるてらこや

今回は宗禅寺で活動できるようになったきっかけをつくってくださった方でもあり、らむぎハウスの副代表の水野義裕さんに書いていただきました。

昨年8月にスタートした「リアルてらこや」も12月で1年半程になります。

お寺さんの全面的なお力添えをいただき、お陰様で大きな事故もなくここまで続けることができました。

この間の活動について報告します。

7月は平日の午前中3日間、それ以外は毎月第二土曜、午前9時から12時までやってきました。



この日は豚汁とおにぎりでご飯

参加している子どもたちは、名簿で50人を超え、小学生から中学生まで、市内のほぼすべての小中学校から来ていて、福生・青梅・あきる野など市外から来ている子どももいます。
毎回、15〜25人くらいの参加があり、持参した宿題やドリルなどでの勉強の

他、将棋やオセロなどで遊んだり、様々なイベントや料理などを楽しんでいます。決まったルールもなく、参加した子どもや大人がお互いを尊重して、活動を楽しんでいます。これまでのイベントは

手品・落語・新聞を使ったワークショップ・絵本の読み聞かせ・ピアノ演奏・絵画のお話・パラグライダーによる短時間空中散歩。

活動場所は、主にお寺さんの客殿、庭ですが、座禅室で座禅をしたり、鐘楼で鐘をついたりもします。

広報活動は、お寺さんのお知らせの他、駅や教育委員会の掲示板のポスター、学校にチラシを置く、お子さんのいると思われるお宅への投函、市の施設にチラシを置く、等です。

支える大人（ボランティア）も総数で30人を超え、毎回15人くらいが、見守りなど子供たちとの交流を楽しんでいます。当初は主となるスタッフの知人が多かったのです



新聞から教育を。新聞から自分で記事を切り抜いて、自分だけの新聞を作りました。

が、今ではポスターを見て集まっていたいただいた方が増えており、子どもが好きな方がたくさんいます。

寺子屋を始めたのは「子どもたちの居場所作り」が目的でしたが、「集まった大人たちの居場所」にもなっています。

活動費用は、当初はスタッフの持ち寄りでしたが、今年はキリン福祉財団の支援を受けることができ、イベントの講師に心ばかりの謝礼を出すことができます。

料理やお菓子などは、「フードバンクはむら」や地元の農家からいただいたものを使っています。

和尚さんとは「焦らず・ゆっくり」と話し合っていて、これからも息の長い活動を続けていきたいと考えています。そして、こんな場所が羽村に、西多摩に広がってほしいなと願っています。

文庫長だより 島田 秀男

昨年は、国内で鉄道が開業してから一五〇年となる節目に合わせて、各地でさまざまなイベントが行われました。

私たちが日ごろから利用している青梅線は、いつ開通したのでしょうか。その契機となったのは、明治四年（一八七一）に始まった玉川上水通船事業でした。

玉川上水に船を通行させ、多摩地域で産出する木材や炭などの物資を東京に送り届け、逆に畑に必要な肥料などを運送するためでした。通船事業は、玉川上水が汚染されるというところで二年という短い期間で廃止となりました。この事業に携わったのは、指田茂十郎や田村半十郎らの上水沿岸の村々の有力者でした。

明治二年（一八八八）、新宿から八王子までの甲武鉄道（現在中央線）の鉄道敷設計画に、指田らは日向和田の石灰石の搬出や青梅地方の物資輸送を目的に、立川から日向和田間の支線を建設することを要望しました。

甲武鉄道側は、この支線建設に反対しましたが、新たな鉄道建設（青梅鉄道）には全面的な支援を約束したのです。甲武鉄道開通した二年後、明治四年（一八九一）に地元有力者一六人が発起人となり、青梅鉄道創立願いを国に提出し、仮免許状が授与されました。

明治二五年（一八九二）二月、発起人たちは各種の準備を整え、路線図面、工事方

法、予算書などを添えて国に提出し、本免許状が受けられました。同年七月、青梅鉄道会社設立総会が開かれ、青梅鉄道の初代社長（当時の名称は委員長）に就任したのは指田茂十郎でした。

明治二七年（一八九四）一月、立川から青梅間が開通しました。青梅鉄道は一日四往復で運行され、停車場は立川・拝島・福生・羽村・小作・青梅の六駅でした。

指田が書き残した明治二五年の日記から、当時の青梅鉄道開通までの様子を見てみます。青梅鉄道開通までの間、さまざまな問題があったことがわかります。問題点を大きく分けると二つありました。

一つは、線路を敷設するところの土地の買取価格でした。西多摩村の地主たちは、時価で買取ることについては反対であるといい、青梅鉄道会社側はそれでは七倍の価格ではどうかと提案するも、三〇倍ならば承諾すると言いつ返され、双方の言い分は平行線であったようです。

会社側は七倍で買取できなければ、鉄道開設の中止の申し合わせを役員間で話し合うなど緊迫した様子がうかがわれます。最終的に決着した買取価格は、不明です。

二つ目は、立川から青梅間の線路をどのルートで建設すべきかということでした。当初は、各集落の中を通過するルートであったといわれています。

指田日記には、明治二五年一月二三日のところ「青梅鉄道線羽ヶ下へ変更之件ニ付役場ニテ委員会アリ」と書かれています。羽ヶ下は、現在の羽村駅より青梅側に位置

する地名ですから、台地のところに線路を通すように変更することです。このことから、従来の計画では集落の中を通る路線であったと考えられます。なぜルートを変更せざるを得なかったのかについては、開催された委員会の資料が残されていませんからはっきりとしたことはわかりません。

ルート変更は、「汽車の火の粉がとんで草ぶきの屋根が火事になる」などの理由で反対運動があったからだとい般的にはいわれています。しかし、この理由の根拠となつた史料がないことから、研究者によれば、鉄道忌避伝説（新しいものに対スルする反感ないし不安の感情に基づく伝承）であるとしています。

路線変更の会議が開催された数日前の日記には、立川から拝島、拝島から小作間は一直線であれば国の許可が下りないとありますから、このことが変更した理由ではないでしょうか。集落に沿って線路を引くと、直線ではなく曲線になり、高低差もあることから、技術的なことや予算面でむずかしかつたと考えます。

北海道のローカル鉄道は、人口減少とマイカーの普及により半分の路線の維持が困難になっていることが公表されました。青梅線が開通してから、約一三〇年。今後、鉄道のあり方がどんどん変化していくと思っています。

《参考文献》

青木栄一『地方史誌と学校教育における鉄道忌避伝説』『青梅鉄道関係史料』

年忌にあたる御霊位

コロナ感染の急拡大もあり、どのようにご法要を行うかお悩みの方もいらっしゃるのではないかと思います。宗禪寺では、お寺のほうから人数や会食の制限は設けませんので、どのような形の「ご法要」にも対応致します。ご供養は「ご自宅」墓前塔婆のみで墓参りでも可能ですので、まずはお寺にご相談させて頂きたい。真心を形に表すことがご供養に繋がります。

◆年忌霊位（本年一月から四月まで）

一周忌 令和四年御逝去

御命日 故人御芳名（敬称略）

Table with 3 columns: Month, Date, Name. Lists names such as 佐藤 英夫, 及川 真紀子, 島田 君江, etc.

七回忌 平成二十九年御逝去

Table with 3 columns: Month, Date, Name. Lists names such as 高橋 森夫, 下村 里子, 鈴木 貞子, etc.

十三回忌 平成二十三年御逝去

Table with 3 columns: Month, Date, Name. Lists names such as 新村 勝由, 鶴岡 和子, 倉島 ハル, etc.

Table with 3 columns: Month, Date, Name. Lists names such as 横田 貞子, 幡垣 雅士, 浅見 美子, etc.

二十七回忌 平成九年御逝去

Table with 3 columns: Month, Date, Name. Lists names such as 横田 カツ, 新井 澄江, 鈴木 スギ, etc.

三十三回忌 平成三年御逝去

Table with 3 columns: Month, Date, Name. Lists names such as 譲原家 アサ, 秋間 アサ, 伊藤家 ヨシ,

朝のおこしめにて、毎日命日の方のご供養をいたします。

宗禅寺日單(正俊記)

- 八月末から十二月まで、宗禅寺は重大な事件で、公私ともに大変な四ヶ月でした。
- 和正和尚、神奈川大船警察署に、児童買春容疑で逮捕される。本山総長、実家、総代長などに連絡。 8 / 22
- 宗禅寺総代会を開催。報告、協議。和正を守ることで一致。夜和正帰山。 8 / 23
- 和正事件、新聞・テレビで報道。関係者の方々に緊急連絡。 8 / 24
- 鎌倉禅研究会(鈴木佐・高橋秀栄先生)で建長寺へ。吉田管長に陳謝。体調不良で、研究会は挨拶のみで帰山。 8 / 25
- 宗禅寺総代会 谷中両親来る。和正お詫び。真夜中に無意識に大量の吐血。翌朝、淑子に発見される。 8 / 26
- 正俊和尚貧血 夕方、目白第二病院へ緊急入院。輸血・点滴など二週間入院治療。胃カメラで胃癌発見。九日退院。
- 九月 正俊和尚、葬儀法要行う。
- 和正 大船警察署で取り調べ。 9 / 8
- 正俊和尚 無事退院。正俊和尚不在の間の葬儀・法要は近隣若手和尚にしていた

- だく。 9 / 9
- リアルてらこや三十五人で盛大に挙行。坐禅会十四人の参加。寺は元氣。 9 / 10
- 大船・塩之入内科へ。胃癌の相談。虎ノ門病院へ紹介状をいただく。 9 / 12
- 建長寺 和正事件の賞罰委員会。 9 / 13
- 宗禅寺 家族それぞれに不調。和正は法要を控えさせ、私がほぼ行う
- 護持会の方、彼岸前清掃。和正陳謝。 9 / 16
- 中野祐司総代長、新井政昭副総代長、寺のことを心配して、時々来山。
- 彼岸坐禅会一週間開催。 9 / 20 ~ 26
- シルバー人材センターの方に、寺周囲の植え込み除草を依頼。二日半。
- 禅センターで月例俳句会。 9 / 26
- 御詠歌講練習、横田さん银杏拾い始めてくれる。和正暁鐘つき出す。 9 / 27
- 建長寺鎌倉禅研究会(尾崎・岡本)へ三十五人。本山で諸友から激励。 9 / 28
- 十月 落ち着かない毎日です。
- 薬師如来大祭 今年も関係者のみで開催。朝粥坐禅会開催。 10 / 2
- 和正少し元気になる。関富美子さんから激励のお菓子沢山届く。 10 / 4

- リアルてらこや。土曜坐禅会十六人 10 / 8
- 虎ノ門病院 布袋屋先生と面談。 10 / 12
- 本堂で月例南京玉すだれ練習。 10 / 13
- 木彫教室、土曜坐禅会、にぎやか。 10 / 15
- 虎ノ門病院(春田先生)から建長寺・鎌倉禅研究会(芳沢・橋本)へ。 10 / 21
- 虎ノ門病院へ手術前検査。 10 / 26
- 建長寺 和正賞罰委員会の査問を受ける。私も弁護人での出席。 10 / 27
- 日本橋でホータン会。高橋秀栄先生、岡倉素子さん私の四人。お茶も。 10 / 28
- 虎ノ門病院で春田先生から胃の全摘を告知。和正さんのお陰で胃癌が発見されよかったです。自分の胃で食事が出来ることを楽しむ。
- 十一月 虎ノ門病院にて手術前検査いろいろ。 11 / 1
- 中野祐司さん来山。諸事相談。入院の保証人になってもらう。 11 / 1
- 寺ヨガ、本堂法事の為、客殿で。 11 / 3
- 虎ノ門病院、術前検査。夕方、総代会。和正事件経過報告と私の手術の件。 11 / 4
- 第一日曜で朝粥坐禅会八人。私の入院中

- の坐禪責任者を新井洋子さんに依頼。午後、コロナ予防接種五回目 11/6
- 東禪寺・常保寺へ私の入院のことで連絡。淑子さんと夕方食事へ。 11/7
- 八日午前中、虎ノ門病院入院。十一日手術。経過良好。二十二日退院。
- 和正 横浜検察庁へ。略式起訴。罰金五十万円。即日納付。 11/17
- 宗禪寺土曜講座(橋上さん)、島田秀男さんが全部対応してくれる。 11/19
- 建長寺賞罰委員会より処分決定通知届く。 11/19
- 十三時久し振りの寺。中野祐司・新井政昭総代正副、退院祝に來山。 11/22
- 鎌倉禪研究会(長尾総長・衣川先生)へ。夕食まで一緒に。 11/24
- 二十五日より葬儀・法要を始める。 11/25
- 健康体操の会。クレヨンの会へ。 11/25
- 土曜坐禅会 直日復帰。十二人。 11/26
- 総代会六人全員、私の退院報告と和正事件の検察・建長寺処分決定の報告と今後のこと相談。 11/27
- 建長寺へ賦課金報告書提出 11/28
- 久しぶりにうどん教室六人 11/29
-
- 寺族四人で銀杏落葉掃き。ルリ・カノも手伝う。銀杏は横田信夫さんが、拾って洗って干して全部して下さる。 11/30
- 十二月 諸事、少しずつ落ち着く。
- 寺ヨガ 本堂で顔出しのみ。寺維持費お願ひ状、マリンバも添えて発送。 12/1
- 坐禅会十四人。木彫教室十人。 12/3
- 朝粥坐禅会九人。午後、東博国宝展へ淑子も入れて十一人で行く。 12/4
- 虎ノ門病院 春田先生より3のbと報告受く。今後の事諸々相談。 12/5
- 文化年間(二百年以上前)の曲衆、五十嵐さん修理完成して持参。御詠歌講成道会法要で皆さんに披露。 12/6
- 鎌倉禪研究会(山名田・采澤)へ。塩之入先生に胃癌を報告。 12/8
- 宗禪寺総代会 和正事件、檀信徒への報告書の検討。 12/9
- 和正 谷中の父と龍沢寺僧堂後藤老師のもとへ事件の低頭に参上 12/10
- 虎ノ門病院(陶山先生)から、鎌倉・淨智寺へ。 12/13
- カマコン十周年祝賀行事で鎌倉へ。一泊。 12/15
- 健康体操の方々、歳末掃除に來山 12/16
-
- 和正事件の檀信徒への報告書発送。 12/16
- 湯島・麟祥院、小川先生勉強会へ。久し振りに行く。 12/19
- 近隣、関係寺院へ、和正事件のお詫びに和正と共に参上。 12/21
- 護持会の方々、総代、薬師講役員の方々に歳末掃除をして下さる。 12/24
- 宗禪寺 歳忘れマリンバコンサート。鎌倉から林美里さん來山。 12/24
- 宗禪寺除夜の鐘 薬師講の方々のお手伝いで、たき火、甘酒、今年も無事に終わりました。いろんな事がたくさんありましたが、皆さんのおかげで、無事に乗り切ることが出来ました。ありがとうございます。今年も、どうぞよろしくお願ひします。



土曜講座のお知らせ

好評の仏教講座はしばらくお休みです。代わりに、住職のイス坐禅、菊地玉雲さんの講談。講師は一人にさせていただきます。ゆつくり、お過ごし下さい。お茶代三〇〇円

◆第七十四回 一月二十八日(土)

イス坐禅とお話し

住職 高井 正俊

・講談「宮本武蔵」1

菊地 玉雲 師

・私のしてきたこと「民謡ひとすじ」

羽村在住民謡歌手 伊庭 末雄さん

◆第七十五回 二月十八日(土)

イス坐禅

・講談「宮本武蔵」2

菊地 玉雲 師

・江戸時代の曲泉(僧侶の坐る椅子)

修復を終えて

木工作家 五十嵐 誠先生

◆第七十六回 三月四日(土)

イス坐禅

・講談「宮本武蔵」3

菊地 玉雲 師

・私のしてきたこと

「青梅夜具地について」

青梅市郷土史料室元室長

大倉 十彌也 先生

※土曜講座各回とも十三時〜十五時頃です

鎌倉禅研究会のお知らせ

鎌倉建長寺で行っている勉強会です。どなたでも予約なしで、直接参加できます。気軽にお越しください。

円覚寺、建長寺共、入口で入山料五〇〇円、会場で資料代五〇〇円を納めて下さい。では、会場でお会いしましょう。

◆第百八十二回 一月十二日(木) 会場：円覚寺

「中国の禅と日本の禅

——道元・盤珪・白隱——

駒沢大学教授 小川 隆先生

・「今、改めて盤珪禪師に学ぶ」

円覚寺管長 横田 南嶺 老師

◆第百八十三回 二月七日(火) 会場：建長寺

・「室町期の禅——幻住派の禅——」

駒沢女子大学学長 安藤 嘉則 先生

・「鎌倉時代初期の『坐禅儀』について」

駒沢大学名誉教授 石井 修道 先生

◆第百八十四回 三月九日(木) 会場：建長寺

・「特別展『東福寺』開催にあたって」

東京国立博物館学芸員 高橋 真作 先生

・「鎌倉時代の禅と茶」

駒沢大学講師 舘 隆志 先生

◆第百八十四回 四月十三日(木)

※鎌倉禅研究会、時間はいずれも午後一時開始。午後四時半終了予定です。

宗禅寺毎月の活動

お寺で新たな自分の発見を

- 朝粥坐禅会…毎月第一日曜日 朝6時〜8時 坐禅後に禅の食事作法でお粥をいただきます。禅の作法は元々熟食です。予約不要です 1/8 2/5 3/5 4/2
- 土曜坐禅会…毎週土曜日 子供：18時〜19時 大人19時半〜20時半 足にご不安の方には、イス坐禅もごさいます。予約不要です。※1月7日から始まります。
- 土曜講座…毎月一回開催の公開講座。毎回13時〜16時。地域文化と財産の再発見に。
- 写経会…毎月1の日(1日、11日、21日) 13時〜15時般若心経写経。支度片付けは全員で。※正月元旦はお休み。1月11日から始まります。
- 鎌倉流御詠歌…毎月第1、第3火曜日 13時半〜15時 仏教のココロを歌に乗せて 指導：高井淑子
- 手打うどん教室…現在2クラス開講中。月一回。講師：島田辰夫先生 ※現在お休み中
- いきいきヨガ…毎月第1、第3木曜日 10時〜11時 予約不要¥500 要大きめのバスタオル持参 講師：園部多恵子さん <https://www.instagram.com/tae.yoga/> 1月は5日から
- リアルてらこや…毎月第2土曜日 午前中 主催：らいむぎハウス 問い合わせ090-5542-6159 (水野) 地域の子供たちの居場所作り。勉強と遊びと料理と。
- 木彫教室…毎月第1、第3土曜日 13時〜16時 講師：新井達矢先生 見学可能 仏像や面を彫ってみませんか? 月謝5,000円 (道具、材料費は要別途) 新井達矢先生ブログ <https://ameblo.jp/tapazyia-1982/>
- 俳句教室…毎月1回適宜。問い合わせ：中野つたえ 042-554-2444
- 尺八吹禅の会…毎月第1、第3月曜日 19時半〜21時頃 坐禅15分、練習60分 問い合わせ：坂井陵童 042-554-3273
- お寺deこころの相談…タロットを使用した心理セラピーです ハムサまで 第一日曜日13時〜18時 要予約 090-6792-4784
- 新聞サロン…毎月第4土曜日 13時〜14時 新聞を使って自分の世界を楽しんで広げましょう。お子様のご参加大歓迎。要予約 鹿野川喜代美 042-554-7343 090-6549-0751
- ▲介護予防体操…健康体操をみんなで一緒にいきます。会場はみんなの家です。毎週金曜日14時〜16時
- 薬師講中・寺子屋委員会・護持会・女性サンガの会 ——活動中です——
- 禅センター・みんなの家 ご使用下さい □各会の会場：●宗禅寺 ○禅センター ▲みんなの家